

地域包括ケアネットワーク No.59

倉敷地域の在宅医療、医療介護連携への取り組み

倉敷医師会介護福祉部担当理事 高尾聡一郎

昨年より介護福祉部理事を担当することとなり、手探りで在宅医療、医療介護連携へ取り組んでいるところですが、現状をご報告させていただければと思います。

先ず、在宅医療に関しては各地域の高齢者支援センターや訪問看護ステーションを中心として、現場に即した在宅医療が提供できるよう医師会が主導しながら市と緊密に連携し、各職種がコミュニケーションを図る事ができるよう2カ月に1度「倉敷市在宅医療をすすめる会」を開催しています。在宅医療で問題となるような、看取り、褥瘡などのテーマで講演を行った後、医師、歯科医師、介護士、訪問看護師など職種が異なったメンバーで5～6名のテーブルに分かれ、身近な問題に対しディスカッションを行うことで円滑なコミュニケーションがとれるような会を心掛けています。

医療介護連携については各小学校区単位で地域のコミュニティを支えている高齢者支援センター職員や小地域ケア会議のメンバー、その他、医師会、歯科医師会などの各種団体が倉敷地区地域ケア会議を構成し、認知症に対する啓発講演や認知症サポーターの育成講座を毎年開催しています。昨年は真備地区で甚大な豪雨災害が発生したため、倉敷市職員や各地域の高齢者支援センターでは真備からの避難者への対応を優先し、予定していた各事業はやむを得ず延期とさせていただきます。災害に対する対応、特に急性期を過ぎた要介護者へ十分なフォローをするために、今後の医療、介護の連携に医師会がリーダーシップをとり積極的にすすめていこうと思っております。

今や社会的な問題となっている認知症に対する取り組みですが、倉敷医師会では認知症初期集中支援チームを4チーム構成し、認知症を発症した初期の段階で直接患者と関わり、適切なサービスの提供、認知症疾患医療センターへの受診時期のアドバイスなどを行っております。真備豪雨災害の避難所などで、環境が変わる事により発生した初期の認知症に対してこのチームが大変有効であり、過酷な生活環境にある避難者の中で認知症を発症しつつある方に対して一定の役割を果たせたものと自負しております。

高齢者人口の増加に伴い要介護者の数も増加されることが予想される中、現在介護職種人口の減少のためその確保が社会的問題になっています。それには彼らのプライドを守る給与や待遇などの施策もさることながら、他の職種間で少しでも互いの仕事の内容を理解し、可能な限りシェアしていく多職種間の連携がより円滑な地域包括ケアの推進の一助となるだろうと思っております。倉敷地域で医師会がリーダーとなり、その架け橋となるために微力ながら尽力したいと思います。